

指導資料

鹿児島県総合教育センター

教育相談 第112号

- 小, 中, 高等学校対象 -

平成13年11月発行

授業に生かすカウンセリング

不登校に関する教育相談に応じていると、学校に行きたくない理由の一つとして「授業の内容が分からない、先生が一方的に話すだけで授業がおもしろくない」などの授業に起因するような言葉を聞くことがある。

また、当センターが昨年度実施した児童生徒に対する意識調査の結果でも、学校に行きたくない具体的な理由として、授業に対する不満の占める割合が最も高く、次いで教師の態度や友達関係の問題となっている。

このことから、不登校やその他の問題となる行動等の未然防止の手だてとして、児童生徒が充実感を抱く授業が求められている。

そのためには一方的な教師主導の授業から児童生徒を主体とした授業へと改善していく必要がある。その一つの方法として、授業の中にカウンセリングの考え方や技法を取り入れ、それらを生かしながら授業を展開することが考えられる。

そこで、授業にカウンセリングをどのように生かせばよいかについて述べる。

1 授業とカウンセリングマインド

(1) よい授業を支える条件

よい授業を支える条件として、二つの

ことが考えられる。一つは、教科・領域本来のねらいを踏まえ、児童生徒が学習内容を理解できるように授業を展開することであり、もう一つは、カウンセリングマインドを大切にした授業を展開することである。

前者については、多くの教師が綿密な教材研究を行いながら学習過程を検討し、指導計画を作成するなど様々な工夫と改善がなされてきている。しかし、後者については、授業研究で取り上げられることも少なく、あまり意識されてこなかったのではないだろうか。

集団の中で行われる授業には、教師と児童生徒及び児童生徒同士の間関係が大きく作用する。その人間関係を豊かにし、受容的で共感的な学習の雰囲気をつくり出すことは、児童生徒の学習意欲を喚起し、学習内容に理解につながるばかりでなく、自己肯定感や学級への所属感を高めることにも有効である。

それを可能にするのがカウンセリングマインドである。

したがって、授業の構想に当たっては、学習内容をどう理解させるかだけでなく、たとえば、発問の仕方や児童生徒の発言の受け止め方、応答等にカウンセリングの考え方や技法をどう取り入れ生かしていくかという視点

も大切にしなければならない。

(2) カウンセリングマインドを大切にした授業

カウンセリングマインドについては、様様なとらえ方があるが、ここでは、相手を受容し共感しようとする態度や精神のことであり、相手を意欲と可能性をもっている個性的な存在として尊重することであるととらえる。したがって、カウンセリングマインドを大切にした授業では、教師は児童生徒のありのままの姿を受容し、気持ちや考えを理解して、児童生徒を中心に据えながら、援助するという姿勢が大切になる。

そのために、次のようなことに留意する必要がある。

ア 子どもの話をよく聴くこと

児童生徒の応答を正否だけで決め付けないで、たとえ間違っているとしても、着眼点のよさとか、考え方のユニークさ等、その児童生徒の独自性を認める。

イ 子どもの気持ちを理解すること

授業中の児童生徒の発言や態度の背景にあるうれしさ、くやしき、喜び等の気持ちを理解する。また、児童生徒の発言に対して、よく顔を見て、うなづきながら聴き、言おうとすることや訴えたい気持ちを理解するように努める。

ウ 教師自身が誠実であること

教師が、自分の過ちに気付いたときや発問の意図がうまく伝わらない場合等、その場で率直に認め、誠実に対応する。

このように、カウンセリングマインドを大切にした授業を展開することによって、児童生徒は信頼感や安心感・満足感が深まり、授業中も生き生きと活動することが期

待できる。

2 授業に生かせるカウンセリング技法

(1) 教師が身に付けたいカウンセリングの基本的技法

カウンセリングの基本的技法を生かすことにより、相手に安心した雰囲気、ありのままの自分を出させ、自分が分かってもらえたという喜びをもたせることができる。

このことを踏まえ、ここでは、カウンセリングの各基本的技法を生かすことによって、どのような効果が期待できるかを具体的に述べる。

ア 受容

「そう」「なるほど」などとうなづきながら、児童生徒の気持ちがあるがままに受け入れる。そのことで児童生徒は、周りに対して心を開き、自分の考えや意見に自信のない児童生徒も、安心して自分の気持ちや考えを发表しようとする意欲を持つことができる。

イ 繰り返し

児童生徒の述べている言葉の大事な部分を反復して返す。そのことで、児童生徒は、「自分のことを大切にしてくれた」という感じをもち、教師に対する信頼感を深めるとともに、自己肯定感を高め、授業への参加意欲が増してくる。

ウ 沈黙

沈黙があったら、「どのように話そうか迷っているのかな。」などと沈黙の意味を考えてじっと待つ。また、

「ゆっくり考えていいんだよ。」などと声を掛ける。そのことによって、理解の遅い児童生徒も自分のペースで安心して授業に取り組み、自分なりにまとめて発表ができ、多様な考え方を引き出すことができる。

エ 感情の明確化

児童生徒が感情表現で困っているときに、教師が言葉で表現して援助することである。例えば、国語や道徳などで登場人物の気持ちを表現させようとするときなど、児童生徒が発表の途中に口ごもってしまった場合、児童生徒の表情や声の調子等から気持ちを読み取って、「主人公の気持ちは、お母さんに恩返しをしたい、助けてあげたいと思っていると言いたいのかな。」などと言葉で表現して児童生徒に返すことである。そのことで、児童生徒は、気持ちを整理して、自分の言いたかったことを自覚することができる。

オ 開かれた質問

「はい」「いいえ」で答えられる質問を「閉じられた質問」、「あなたは、そんなときどんな気持ちでしたか。」などと答えるのに説明を要する質問を「開かれた質問」という。開かれた質問をすることで、児童生徒は、自ら考え思考を深めようとする態度を育てることができる。

(2) 授業の中で児童生徒に身に付けさせたいソーシャルスキル

ソーシャルスキルとは、「良好な人間関係をつくり、保つための知識と具体的な技術やコツのこと」(東京学芸大相川充 1997)

であり、人とのかかわりなど生活経験の中で身に付けていくものである。しかし、近年、このソーシャルスキルを十分に身に付けることなく成長してきている児童生徒が増えている。そのため、よい人間関係が結ばず、集団への所属感や満足感等をもてない児童生徒もいる。

ア 上手な聴き方

人の話に注意深く耳を傾ける大切さに気付き、意識的に聴くスキルのことである。「うなずいて聴く」「相手の目を見て聴く」「最後まで聴く」「笑顔で話を聴く」などがある。

イ 理解を深める質問の仕方

聞きたいことを明確にして、適切な態度で、相手にも真剣に聴いていたことが伝わるように質問するスキルのことである。質問に際して、「あいさつをする」「質問してよいか相手の都合を聞く」「質問する」「お礼を言う」といったような手順を大切にす。

ウ 温かな声掛け

相手が温かな気持ちになるような言葉を考えて、声掛けをするスキルのことである。「褒める」「励ます」「心配する」「感謝する」などの声掛けがある。

エ 気持ちの感じ方と返し方

相手の表情の読み取り方、声や身振りへの注目の仕方等を身に付け、感じたことを言葉や表情、身振り等で相手に伝えるスキルのことである。「相手の言動から気持ちを知る」「同じように感じている自分の気持ちに気付く」「自分の感情を言葉で表現する」「自分の気持ちを表情で表す」など

がある。

このほかにも様々なスキルがあるが、これらのスキルを授業で繰り返し指導するとともに、特別活動の時間等を活用して、一つ一つのスキルを系統的・段階的に、ロールプレイング(役割演技法)等を使いトレーニングすることが効果的である。

3 授業の実際

次は、ある児童の詩「生命」を題材にカウンセリングマインドを生かしながら、児童にソーシャルスキルを身に付けさせよう

としている授業の一部である。教師は、次のことに留意しながら授業を展開している。

- ・ カウンセリングの基本的技法を使って、発表者に気持ちを気付かせるとともに、他の子供にも発表者の気持ちに共感させる。
- ・ 発表するときの表情・身振りにも注意を向けさせることで、言葉以外にも感情が読み取れることに気付かせ、「上手な聴き方」を身に付けさせる。
- ・ 励ましや感謝の言葉を伝えたり、褒めたりすることで相手が喜ぶことに気付かせる。

《6年国語 ～場面と心情の表現～》

本時の目標：それぞれの詩に表現された気持ちを感じ合うとともに、お互いの詩のよさを見つけることができる。

【 】は教師のカウンセリングの技法，《 》は 児童生徒に身に付けさせるソーシャルスキル，A～Gは児童生徒，Tは教師，全は全員

T A君，詩を発表してください。

A ふわふわとやわらかい 猫の毛/キョロキョロ動く 猫の目/ピクッと動く 猫の耳/猫の心臓がドクンドクンと音がする/僕の心臓もドクンドクンと音がする/猫も僕も生きている……
……(略)

T この詩を書き終わって、どんな感じがしますか。【開かれた質問】

A これだけよく書けたなと思います。

T 猫の様子がよく分かるように書いて、僕もよくやるなあという感じですか。【感情の明確化】

A はい、身体などのことについて、なんか知らないうちに全部書けたということです。

T ああ、なるほど、なるほどね。【受容】

A 身体が生きているって感じがする。

T 身体が生きているって感じがするのね。【繰り返し】

T 「自分の心臓もドクンドクンと音がする」という、このところを心臓になったつもりで、身体を動かしながらみんなで言ってみようか。

全 ドクン、ドクン(身体をそれぞれのイメージで動かしながら)

T 身体の動きがそれぞれ違っていいね。今、どんな感じがしていますか。【開かれた質問】

B 気持ちいい。(子どもたちはB君を向いてうなずきながら聴いている。)

C わたしも気持ちいいです。

T 気持ちいいんだね。B君の表情が生き生きしているね。(他の子どもはB君を見る)

- D (こぶしをにぎり)力強い。
- E D君が言ったように、力強く感じるし、本当に心臓が動いているような感じがします。
- T D君のようにこぶしをにぎって言うと本当に力強い感じがしますね。Eさんは「D君が言ったように」と同じ意見であることをきちんと伝えてから、自分の意見を発表しています。そうすると、D君も自分の意見を聞いてもらえたことがよく分かりますね。
- F A君に質問していいですか。どうして生命という題名にしたのですか。《質問の仕方》
- A
- G 頑張ってください、《励まし》
- A 猫を抱いているとき、猫の心臓と僕の心臓の音が同じだったので、どちらも生きていると思ったからです。
- B よかったなと思うところを発表してもいいですか。A君は猫の動きがとてもよく表現できていると思います。(A君はにこにこ笑っている) 《褒める》
- T 先生もみんなのいいところを見つけました。友達が発表するときに、その人をよくみ見ながら、うなずいて聴いている人がいました。とても、よく聴いているということが先生にも伝わってきました。

このように、教師がカウンセリングマインドを大切にするとともに、児童生徒にソーシャルスキルを身に付けさせる視点をもって授業を展開すれば、人間関係が豊かになるとともに、学習活動も、活性化すると思われる。

また、こうした授業づくりを積極的に進め

ることによって、不登校等の予防にも効果が期待できると考える。

《参考文献》

『ソーシャルスキル教育で子供が変わる』1999 図書文化

『学校教育相談初級講座』1995 学事出版

〔教育相談室〕